▲ 力強い騎乗で主将としての存在感を示した吉澤

馬術・全日本学生

3種目総合で団体準優勝

個人・総合馬術 吉澤が準優勝

全日本学生馬術大会が10月30日から11月4日まで、JRA馬事公苑で開かれた。団体は障害飛越で3位、馬場馬術で4位、総合馬術で3位となり、3種目総合では惜しくも準優勝となった。

個人では、総合馬術競技で吉澤和紘主将（経営4・西宮香風高）・エンドーペロー号が準優勝を果たした。調教審査、耐久審査は好成績だったが、余力審査で減点。優勝は逃したが、力強い騎乗で主将としての存在感を示した。吉澤主将は、障害飛越でも6位に入賞。

また、馬場馬術で高山健一郎（商4・向陽台高）・ダークリスタル号が決勝に駒を進め、10位と健闘した。

富沢健悟監督は「精いっぱい、力の限りやった結果で悔いはない。4年次生はチームを良くまとめ、好成績を残してくれた」とたたえた。

生子学東関女

鶴林が優勝

全日本学生に4人出場

11月18日、同じくJRA馬事公苑で行われた関東学生馬術女子選手権で、鶴林舞（商1・市立前橋高）が優勝を果たした。同大会と、同日行われた関東学生選手権の結果、鶴林を含めた4人が12月の全日本学生選手権の出場権を得た。

（久田 照喬・商1＝写真も）